

謝辞

本誌『教育論叢 特別編』を発刊するには、多くの方のご協力を賜りました。まず、書評論文の執筆を引き受けてくれた、各執筆者に御礼申し上げます。各執筆者の方には、突然に研究室の部屋をノックし、もしくは人づてにメールアドレスを頂戴し、企画趣旨を伝え、書評論文の執筆を依頼しました。企画者の勝手な思いつきに対して、真摯に対応していただき、意欲的に企画に参加していただいたことに感謝申し上げます。最初の執筆者の顔合わせの時に各執筆者の研究関心をお話しいただいたときには、どれも興味深く聞かせていただいたことを覚えています。今後も研究交流が継続できれば幸いです。

また、本誌を発刊するにあたっては名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻自治会の協力が不可欠でした。とくに、『教育論叢』第 62 号編集委員会の二村玲衣さんには、本企画を持ちかけたときに、金銭面から発刊が難しいと思われましたが、「『特別編』として別冊で、しかも電子媒体でやりませんか。」と提案していただきました。のちに、執筆者としても協力していただきましたが、このような提案なくては発刊することが出来ませんでした。ありがとうございました。

書評論文に先立つ形で実施された読書会には、院生を中心として多くの方にご参加いただきました。参加者の皆様には感謝申し上げます。参加者の皆様との議論も本誌を構成する大事な一部となっております。読書会では、『教育学年報 11 教育研究の新章』の編著者である仁平典宏先生にもご参加いただきました。様々な偶然が重なって、仁平先生がご参加くださり（しかも、読書会の終盤までは名乗らず…）、とても活発な議論が展開されました。ありがとうございました。また、編著者の石井英真先生は名古屋大学教育学部の教師教育学領域の授業にゲストスピーカーとして『教育研究の新章』について講義された際に、企画者や本書評論文の執筆者が同席させていただきました。講義中、またはその後にも直接意見をさせていただき、教育学の捉え方・考え方について学ばせていただきました。ありがとうございました。

そのほか、多くの方のご協力のもとに本誌は発刊されました。企画者二人の研究室での他愛のない構想が、このような形でまとめることができ、とてもうれしく思っております。今後とも、教育研究に携わる者として研究交流を深められることを願っております。

2020年3月31日

企画者 野村駿 上地香杜